＜様式＞

| 学校名 | 山形市立南山形小学校<br>山形市大字松原字東河原１８８番地<br>ＴＥＬ ６８８－２４３０　ＦＡＸ ６８８－９０４３ | 校　長 | 沼澤　聡 |
|---|---|---|---|
| | | 研究主任 | 鏡　緑 |
| 研究主題 | 自ら学び、仲間とかかわりながら学ぶ子ども（１年次） | | |
| 研究主題設定の理由 | 本校の学校教育目標は、長年掲げられてきた「かしこく　ゆたかに　たくましく」に加え、今年度も昨年度同様、「主体的に学び　互いに認め合って生活する子どもの育成」が示されている。学校教育目標を具現化するためには、学校経営方針と校内研究の方向性を一致させ、より効果的に子ども達を育てていく必要がある。<br>そこで、校内研究では、今年度より、「自ら学び、仲間とかかわりながら学ぶ子ども」を目指し、学級経営を基盤として、「主体性」と「協働性」のあふれる授業を展開していきたいと考えている。昨年度の研究では、自分がもった課題を、友達と教え合いながら主体的に学びを進める姿が少しずつ見られるようになってきた。しかし一方で、本気で課題解決に向かう中で、かかわりを自ら求める意識がまだまだ足りない子ども達が見られるという現状もある。そこで、今年度は、特に「仲間とかかわりながら学ぶ子ども」に焦点を当てながら研究に取り組んでいきたいと考える。 | | |
| 研究の目標 | 「資質・能力の明確化」「主体的・対話的・深い学び」の実現には、授業改善は欠かせない。明確な方向性のもと、全教職員が同じ認識に立って学習指導を行っていくことは、子供たちの資質能力を育てる上で欠かせないと考えている。<br>「やってよかった」「取り組んでよかった」と思えるように、①研究の日常化、②自由な実践、③学びの共有の３つの原則を大切にした実践により、子ども達の資質能力を育てていく。 | | |
| 研究の内容 | **（１）基本方針**<br>「校内研究の目的の明確化」➡授業研＝校内研究ではない。教師の力量向上は子どものためになる。<br>「持続可能な校内研究」➡教科・領域の縛りをなくし、負担感が少ない研究に。<br>「学びの共有」➡大研は全員で参観、全員で事後研<br><br>**（２）重点**<br>**重点①　自ら学ぶ力を高める（主体性）**<br>**➡・課題設定の工夫**<br>**・解決への見通しがもてるような働きかけ**<br>**・学習の振り返りの充実　※１時間、単元の終わり**<br><br>これらの手立てや工夫を通して、一人一人の子どもが主体的に課題解決に取り組み、満足感や達成感が得られることを目指す。子ども達たちは、学びを通して自分の成長を実感したり、学んだことを生活に生かそうとしたりするようになると考える。また、振り返りからは、「次はこうしたい」「～ができるようになりたい」といった願いをもつことで、さらに主体的に学習に取り組むことができるようになると考える。対話は自然発生しないため、対話が生まれるような課題設定や、授業をコーディネートする技術が求められる。<br>**重点②　仲間と関わりながら学ぶ力を高める（協働性）** | | |

「仲間と学ぶ、仲間に学ぶ」
➡・考えを表現する活動の充実
・思考を促す発問の吟味
・対話の場面や方法、学習形態の工夫

友達と関わり合い、自分の考えを伝え、友達の考えを聴く中で、考えが広がったり、深まったりしていき、子ども達が友達と学ぶよさ、考えを伝え合い、聴き合うことの大切さに気付けることを目指していく。何のための関わり合いなのかを明確にし、思考を促す発問の吟味や関わり合いの方法、学習形態の工夫をする。

**（３）教科**

・学年カリキュラムマップを作成し、指導案に活かしていく。（授業で学級経営）
全ての教育課程で意識的に取り組む。（授業だけでなく、日常、行事でも）
・研究授業はどの教科・領域でもよいが、子ども達の実態、つけたい力（＝主体性、教科の学力、教科を跨ぐ資質能力）などを考慮し、教科や授業研の時期を決める。

**研究の方法**

【基本的な考え方・取り組み方】

① 協働性を高めることに重点を置き、みんなで同じ方向を向いて取り組んでいく。
② ３つの原則（研究の日常化／自由な実践／学びの共有）
③ ４５分の中に主体性と協働性を。
意識していきたいこと　ア　一緒に学ぶ良さが実感できる授業
イ　学校だからできること、学校でしかできないこと
④ メリハリのある単元計画（個別最適な学び←個に応じた指導／協働的な学び）
➡指導の個別化・学習の個性化　※自己調整学習
指導の個別化…子どもの一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う。
学習の個性化…教師が子ども一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身が、学習が最適となるよう調整する。
⑤ 授業のために学級経営をするのではなく、授業（学習指導）と生徒指導の両輪で学級経営をする。
⑥ 教科固有の力＝教科の目標に対しての到達度だけではなく、教科をまたぐ資質能力も育てる。
⑦ 指導法や手立てを考える前に教科の内容や理論も研究する。
⑧ 大研は、上学年１回、下学年１回の計２回とする。
⑨ 教科固有の力と教科をまたぐ資質能力の育成を意識しながら、それを実現する手立てを考えて、１人１回の提案授業で具現化する。
⑩ 大研は、学年で構想→上・下学年部で指導案検討
下学年部会　１～３年、すぎのこ学級、養護教諭、（研究主任、研究副主任）
上学年部会　４～６年　すぎのこ学級、教務主任、担任外（研究主任、研究副主任）
事前研の日程調整は、研究推進委員と教務主任で調整する。大研授業者は学年部を代表して授業を行う。学年部で授業をつくるという意識で行う。
⑪ 小研は提供授業とし、日時と教科を各自で決める。
⑫ 大研・小研ともにできる限り外部講師を招聘し、指導を仰ぐ。
⑬ 授業だけではなく、委員会活動やクラブ活動、たてわり班活動、清掃、学校行事などの場面でも「自ら学び（主体性）、仲間とともにかかわりながら学ぶ（協働性）子ども」を育てていく

**授業構想（学年で）**
・授業者の思いや授業構想の共通理解
・大まかな単元の指導計画や本時の展開の検討

↓ **指導案作成**

**指導案検討（事前研）（上下学年部で）**
・単元計画、本時の目標・学習活動・評価の一貫性、資質能力を育てるための手立てや工夫が適切か検討

↓ **指導案修正➡指導案完成（１週間前まで）**

**授業研究会（全員参観）**
・育成する資質能力を中心に、子供たちの主体的な学びの姿を見取る。
※授業記録や写真は学年部で分担

↓

**事後研究会（全員参加）**
・子供の学びの姿を中心に、手立てや工夫について
・重点や資質能力、カリキュラムマップと授業との関連について

↓

**研究だより「東雲」発行**
授業者の振り返り、授業研での学びをこれからの日々の授業にどう生かすか、お互いの授業の向上につながるように、成果と課題をまとめる。

※小研については、できる限り参観するものとし、事前研・事後研もできる限り行う。

研究の計画

| 月 | 校内研究全体会 | 大研(下学年・上学年) | 小研 |
|---|---|---|---|
| 4 | 21 日（金）研究推進委員会①<br>26 日（水）研究全体会① | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | 20 日（火）５－２外国語 |
| 7 | 4 日（火）研究全体会②<br>（授業研・事後研）<br>中旬　研究推進委員会②<br>21 日（金）研究全体会③ | 4 日（火）大研①<br>４－１道徳科 | |
| 8 | | | 30 日（水）３－２国語 |
| 9 | | | 29 日（金）３－１道徳科 |
| 10 | | | 27 日（金）４－２道徳科 |
| 11 | | | 上旬　すぎのこ学級<br>9 日（木）６－１外国語<br>14 日（火）２－１生活科<br>17 日（金）６－２家庭科<br>21 日（火）５－１外国語 |
| 12 | 7 日（木）研究全体会④<br>（授業研・事後研）<br>中旬　研究推進委員会③<br>19 日（火）研究全体会⑤ | 7 日(木)　大研②<br>１－１生活科 | 1 日（金）２－２算数<br>5 日（火）１－１国語 |
| 1 | 下旬　研究推進委員会④ | | |
| 2 | 22 日（木）研究全体会⑥ | | |
| 3 | | | |